

2課 イエス様の他の教訓 (マタイ 12:8)

フォーラムのポイント 「安息日」

マタイ 12:8 人の子は安息日の主です。

2課では「安息日」についてお話しします。

他の内容は、教会の先生とフォーラムしてください。



イエス様がご自身が「安息日の主」だと言われました。

いま、私たちは、日曜日を「安息日」として主日礼拝をささげています。

安息日について、聖書では次の箇所に書かれています。

出 20:8 (十戒の中で)

安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

出 35:2

六日間は仕事をしてもよい。しかし、七日目には、主の聖なる全き休みの安息を守らなければならない。この日に仕事をする者は、だれでも殺されなければならない。

このような旧約の律法を守ってきたユダヤ人たち、とくにパリサイ人にとって、安息日にしてはならないことをするイエス様とその弟子たちは、律法によって殺されなければならない人たちだったのです。結局、これらのことによって、イエス様は十字架にかけられました。

この安息日を理解するためには、創世記の創造の話に戻らなければなりません。

創世記2:1-3

1 こうして、天と地とそのすべての万象が完成された。

2 神は第七日目に、なさっていたわざの完成を告げられた。すなわち第七日目に、なさっていたすべてのわざを休まれた。

3 神は第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。



神様は第七日目に休まれました。それは、創造のわざで、とても疲れたから休んだ…のではありません。

これは、神様の創造が「完ぺきに完成された」ことを言わわれているのです。ですから、第七日目は、創造の完成とともに、永遠のはじまりだったのです。ですから、神様のかたちとして造られた人間は、創造主である神様とともに永遠を味わうだけで十分だったのです。



しかし、創世記3章の善惡の知識の木の実の事件によって、この安息が壊れてしまつたのです。

それゆえ、神様はこの第七日目に他の仕事、他のわざをしなければなりませんでした。それが「ひとり子、イエス様を通しての再創造のわざ」でした。



ヨハネ5章を見ると、38年間病気で苦しんでいた人をいやされたとき、イエス様がユダヤ人に次のように言われました。

ヨハネ5:17

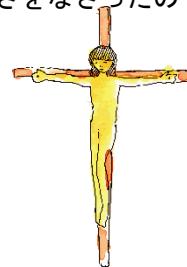
イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」

安息の日、第七日目が壊れてしまつて、再創造、新しく創造するために、神様はわざをなさつたのです。それでこの世に送られたイエス様も、そのために働いてくださつたのです。

それは、どのような働きだったのでしょうか。

**十字架を通しての救いのわざ**でした。

それゆえ、イエス様が十字架の上で最後にすべて「完了した」と言われました。再創造の安息日に、すべてを成し遂げて「完了した」ということです。



イエス様が十字架にかけられて死なれた日は、第六日の昼の3時ごろでした。この日に亡くなられ、第七日は、完全に休まれました。なにも働くことなく、完全な休みの中に入つて、安息日の次の日によみがえられたのです。安息日の次の日に復活され、初穂となり、よみがえられたので、救われた私たちの中に聖靈としておられ、私たちの中で、まことの安息を与えてくださつています。ですから、イエス様は「安息日の主です」とご自分が言われたのです。



そして、いまも私たちとともにおられ、永遠の神の国に入るまでともにおられます。完全に神の国が私たちの中に臨み、黙示録の中で成し遂げられると言われた新しい天と新しい地に行くまで、私たちを完ぺきに導いてくださつています。

ですから、私たちには、ただ日曜日だけが安息日として礼拝をささげる日なのではなく、毎日、毎瞬間に安息日の主であるイエス様とともに礼拝をする日なのです。私たちの人生そのものが礼拝者としての人生であることを覚えましょう。

第2課の他のことは、学院福音化的テキストの中にある聖書箇所をすべて聖書から開いて自分の目で読んで默想しましょう。そして、イエス様がこの世が語っていることと違う話をなぜされたのか、なぜ他の教訓を語られたのかを深く默想する一週間にしましょう。